



Red Hat Single Sign-On 7.6

リリースノート

Red Hat Single Sign-On 7.6 向け

Red Hat Single Sign-On 7.6 リリースノート

Red Hat Single Sign-On 7.6 向け

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_Notes.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本ガイドは、Red Hat Single Sign-On のリリースノートとして作成されています。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
第1章 RED HAT SINGLE SIGN-ON 7.6.0.GA	4
1.1. 概要	4
1.2. 新機能または改善された機能	4
1.2.1. 段階的な認証	4
1.2.2. クライアントシークレットのローテーション	4
1.2.3. リカバリーコード	4
1.2.4. OpenID Connect ログアウト時の改善	4
1.2.5. WebAuthn の改善	5
1.2.6. セッションの制限	5
1.2.7. SAML ECP プロファイルがデフォルトで無効	5
1.2.8. その他の改善点	5
1.3. 既存のテクノロジープレビュー機能	5
1.4. 削除済みまたは非推奨の機能	5
1.5. 修正された問題	6
1.6. 既知の問題	6
1.7. サポートされる構成	6
1.8. コンポーネントのバージョン	6
1.9. RED HAT OPENSIFT の RED HAT SINGLE SIGN-ON メータリングラベル	6

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。これは大規模な取り組みであるため、これらの変更は今後の複数のリリースで段階的に実施されます。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 RED HAT SINGLE SIGN-ON 7.6.0.GA

1.1. 概要

Red Hat は、Red Hat Single Sign-On (RH-SSO) のバージョン 7.6 のリリースを発表します。RH-SSO は Keycloak プロジェクトをベースとしており、OpenID Connect、OAuth 2.0、SAML 2.0 などの一般的な標準仕様に基づいて Web SSO 機能を提供することで、Web アプリケーションのセキュリティを保護します。RH-SSO サーバーは OpenID Connect または SAML ベースの ID プロバイダー (IdP) として機能し、エンタープライズユーザーディレクトリーまたはサードパーティー IdP が標準仕様ベースのセキュリティトークンを使用してアプリケーションを保護できるようにします。



注記

IBM Z および IBM Power Systems 向けの Red Hat Single Sign-On は、OpenShift 環境でのみサポートされます。IBM Z および IBM Power Systems でのベアメタルインストールはサポートされていません。

以下の注記は RH-SSO 7.6 リリースに適用されます。

1.2. 新機能または改善された機能

1.2.1. 段階的な認証

Red Hat Single Sign-On が段階的な認証をサポートするようになりました。詳細は、[Server Administration Guide](#) を参照してください。

1.2.2. クライアントシークレットのローテーション

Red Hat Single Sign-On は、顧客のポリシーによるクライアントシークレットのローテーションをサポートするようになりました。この機能はプレビュー機能として利用でき、レムポリシーで機密クライアントを指定できるようになり、最大 2 つのシークレットを同時に使用できるようになりました。

詳細は、[Server Administration Guide](#) を参照してください。

1.2.3. リカバリーコード

リカバリーコードは、二要素認証を行う別の方法として、プレビュー機能として利用できるようになりました。

1.2.4. OpenID Connect ログアウト時の改善

Red Hat Single Sign-On がすべての OpenID Connect ログアウト仕様に完全に準拠するように、いくつかの修正および改善が行われました。

- OpenID Connect RP-Initiated Logout 1.0
- OpenID Connect Front-Channel Logout 1.0
- OpenID Connect Back-Channel Logout 1.0
- OpenID Connect Session Management 1.0

詳細は、[Server Administration Guide](#) を参照してください。

1.2.5. WebAuthn の改善

WebAuthn は、テクノロジープレビュー機能ではなくなりました。今回、完全にサポートされるようになりました。

また、Red Hat Single Sign-On は WebAuthn IDレス認証をサポートするようになりました。この機能により、セキュリティキーが常駐キーをサポートする限り、WebAuthn セキュリティキーが認証中にユーザーを識別できます。詳細は、[Server Administration Guide](#) を参照してください。

1.2.6. セッションの制限

Red Hat Single Sign-On は、ユーザーが持つことができるセッション数の制限をサポートするようになりました。制限は、レルムレベルまたはクライアントレベルで配置できます。

詳細は、[Server Administration Guide](#) を参照してください。

1.2.7. SAML ECP プロファイルがデフォルトで無効

SAML ECP プロファイルを悪用するリスクを軽減するために、Red Hat Single Sign-On は明示的にこれを許可しないすべての SAML クライアントに対してこのフローをブロックするようになりました。このプロファイルは、クライアント設定内で **Allow ECP Flow** フラグを使用して有効にできます。[Server Administration Guide](#) を参照してください。

1.2.8. その他の改善点

- アカウントコンソールが最新の PatternFly リリースと整合。
- 暗号化されたユーザー情報エンドポイント応答のサポート。
- 暗号化キーに使用される A256GCM を使用したアルゴリズム RSA-OAEP のサポート。
- GitHub Enterprise サーバーでのログインのサポート。

1.3. 既存のテクノロジープレビュー機能

以下の機能は引き続きテクノロジープレビューのステータスになります。

- クロスサイトデータレプリケーション
- トークンの交換
- 詳細な承認パーミッション

1.4. 削除済みまたは非推奨の機能

これらの機能のステータスが変更になりました。

- Keycloak CR の **podDisruptionBudget** フィールドは非推奨となり、Operator が OpenShift 4.12 以降にデプロイされる際に無視されます。回避策として、[Upgrading Guide](#) を参照してください。
- 非推奨の **upload-script** 機能が削除されました。

- Red Hat Enterprise Linux 6(RHEL 6)での Red Hat Single Sign-On(RH-SSO)のサポートは非推奨となり、RHEL 6 では RH-SSO 7.6 リリースはサポートされません。RHEL 6 は 2020 年 11 月 30 日にライフサイクルの ELS フェーズに入り、RH-SSO が依存する Red Hat JBoss Enterprise Application Platform (EAP) は、EAP7.4リリースでRHEL 6 のサポートを終了します。お客様は、RHEL 7 または 8 バージョンに RH-SSO 7.6 のアップグレードをデプロイする必要があります。
- Spring Boot アダプターは非推奨となり、RH-SSO の 8.0 以降のバージョンには含まれません。このアダプターは、RH-SSO 7.x のライフサイクル期間、メンテナンスされます。ユーザーは Spring Security に移行して、Spring Boot アプリケーションを RH-SSO と統合する必要があります。
- RPM からのインストールは非推奨になりました。Red Hat Single Sign-On は、7.x 製品の有効期間中も引き続き RPM を提供しますが、次のメジャーバージョンでは RPM は配信されません。製品は、引き続き ZIP ファイルからのインストールと、OpenShift でのインストールを引き続きサポートします。
- Eclipse OpenJ9 における Red Hat Single Sign-On for OpenShift は非推奨になりました。ただし、OpenShift の Red Hat Single Sign-On は、[Red Hat Single Sign-On for OpenShift Guide](#) で説明されているように、すべてのプラットフォーム (x86、IBM Z、および IBM Power Systems) をサポートするようになりました。この変更の詳細は、[Java Change in PPC and s390x OpenShift Images](#) を参照してください。
- 承認サービスの Drools ポリシーが削除されました。

1.5. 修正された問題

RH-SSO 7.5 から 7.6.0 で修正された問題の詳細は、[RHSSO 7.6.0 Fixed Issues](#) を参照してください。

1.6. 既知の問題

本リリースには、以下の既知の問題が含まれています。

- [RHSSO-2091](#): Operator fails to upgrade to 7.6.0 GA with the error "FAILED Update RHSSO Deployment(StatefulSet)"というエラーで、Operator は 7.6.0 GA へのアップグレードに失敗します。
この [KCS ソリューション](#) を参照してください。
- [KEYCLOAK-18115](#): RHSSO 7.4.6 で拒否された属性の編集を試行

1.7. サポートされる構成

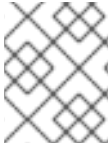
RH-SSO Server 7.6 でサポートされる機能および設定の一覧は、[カスタマーポータル](#)で確認できます。

1.8. コンポーネントのバージョン

RH-SSO 7.6 でサポートされるコンポーネントのバージョンの一覧は、[カスタマーポータル](#)で確認できます。

1.9. RED HAT OPENSIFT の RED HAT SINGLE SIGN-ON メータリングラベル

メータリングラベルを Red Hat Single Sign-On に追加し、OpenShift Metering Operator を使用して Red Hat サブスクリプションの詳細を確認できます。



注記

メータリングラベルは、Operator がデプロイおよび管理する Pod に追加しないでください。

Red Hat Single Sign-On では、以下のメータリングラベルを使用できます。

- **com.redhat.component-name: Red Hat Single Sign-On**
- **com.redhat.component-type: application**
- **com.redhat.component-version: 7.6**
- **com.redhat.product-name: "Red_Hat_Runtimes"**
- **com.redhat.product-version: 2020/Q2**

関連情報

- [OpenShift Container Platform でのメータリングの設定および使用](#)